

羊飼いたちの賛美

RCI南大阪福音教会牧師 福野 正和

「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあげ、賛美しながら帰って行った。」

(ルカ 2:20)

クリスマスは、賛美から始まりました。

ルカの福音書の著者ルカは、クリスマスの出来事を詳しく書きましたが、多くの賛美があったことを記録しています。いずれも「神への賛美」でした。「マリアの賛美」「祭司ザカリヤの賛美」「天の軍勢の賛美」「シメオンの賛美」の四つの賛美と、もうひとつが「羊飼いたちの賛美」です。ただ、羊飼いたちは何と賛美したのかは書かれていません。「天の軍勢の賛美」は、羊飼いたちが多くの人々に語り伝えたので人々にも記憶されていました。その他の賛美については、パウロがエルサレム訪問で捕えられ、カイザリヤの牢につながれていたA.D.58-60年頃、ルカがエルサレムを訪問し、エルサレムのヨハネの家にはまだ生存中のイエスの母マリアから直接に聞く機会があったと考えられます。ルカは、「すべてのことを初めから綿密に調べていますから」(ルカ1:3)と書いているのです。

神を選んだクリスマスの証人は、ベツレヘムの羊飼いたちでした。

「羊飼い」という仕事は、社会的身分も低く、とても厳しい仕事でした。神は歴史的大預言の証人として、「貧しい素朴な羊飼いたち」を選ばれたのです。神は、「人」を探し選ばれます。神の恵みはいつの時代にも、神の御声に従順なへりくだった者の上に注がれるのです。羊飼いたちは主の御使いに聞き従い、生活の糧である羊の番の仕事わきを置いてベツレヘムまで行き、

飼葉桶に寝ているみどりごを探し当てました。告げられた驚くべき出来事を人々に知らせ、「神をあげ、賛美しながら帰って行った」のです。心からあふれてくる神への賛美を、夜が明け始めた空を見上げ、神に向かって賛美したのです。

羊飼いたちの賛美は、救い主と出会ったからでした。

彼らの賛美は、「神への信仰」に満ちた賛美でした。神のこぼれで心が満たされていたからです。ローマ帝国の圧政の苦しみの生活でしたが、神が最高に良い方であることを知ったのです。また、心に「喜び」があふれる賛美でした。救い主に会ったことを心から喜んでいたので。神が最高に良いことをして下さったのを知りました。また、「神の愛」で満たされた賛美でした。生活の不安や恐れがいつの間にか消え去り、心に希望が満ちて来るのを体験したのです。神が最高に真実な方であることを知ったのです。救い主にお会いし、傷ついていた心が癒され、神の愛にふれ、賛美があふれ出て来たのです。キリストは、罪を赦して下さるだけでなく、人生を癒し幸せにして下さるお方です。

クリスマスの賛美は、救い主イエス・キリストへの賛美です。

人は愛されるために生まれますが、キリストは、「ただ愛するため」に生まれ、「この世」に拒絶されました。「飼い葉おけ」という、「貧しく汚いところ」でお生まれになりましたが、そこは「いのちを育てる場所」でした。主キリストは十字架の死と復活により、罪と死の力からの救いと永遠の命を与えるために来られたのです。クリスマスは、あなたの心の飼葉桶から始まります。あなたの心をきよめて、神の平安で満たし、神に造られたあなたの価値をあなた自身が受け入れることができる力と希望を



与えてくれるのです。

親しい牧師ご夫妻が、「失われた時をこえて、『認知症家族』の3年」というドキュメンタリーでテレビ出演されました。夫人は、何年も前に若年性アルツハイマー型認知症の診断を受けられ、最初に「なぜ私が認知症にならなければいけないの?」と言われてたそうです。「一生涯を主にお献げしたのに、なぜ?」という思いだったので。「私は私として生きていきたい」という長い心の葛藤の歳月を過ごした後、夫人は、「私、主から『認知症のあなたが必要です』と言われてたように思う」と語られ、それからは「なぜ私が認知症に?」という言葉が出なくなったそうです。お二人とも独身の時代から存じ上げていたので、ご夫妻が遭遇された人生の大きな戦いにどう出口を見出すことが出来るのか、主のみこころは何なのかと聞いていました。私自身にも、「主に献身された素晴らしい方々に、なぜ神は?」という問いかけがありました。主キリストが、「あなたが必要ですよ」と語られたとき、そこに長年の苦闘の出口があったことを聞き、深い感動を覚えました。クリスマスは、神の御子キリストが「わたしはあなたを愛しています。あなたは必要な人なのです!」と、十字架でのちを捨てて私たちに近づいて下さるために地上に来られた日なのです。この方を受け入れ信じるとき、神への賛美がわきあがって来ます!

御恵みゆえに遣わされ

チェン 有美子 JEMS宣教師



「福音を伝えに日本に戻ろう」。長年抱いていた私の日本への思いは夫の決心によって現実化し、2017年4月、私達は36年住み慣れたカリフォルニアを後に、日本へと旅立ちました。いざ促されると可愛い孫と過ごす大切な日々はあきらめ難く迷いましたが、2年半に及ぶ拘置所ミニストリーに関わった夫の決意は固く、もはやコスタリカでサーフィンを楽しむリタイア生活を夢に語っていた人ではありませんでした。神様は祈り求めた私たちにお応え下さいました。1月に、前年のビジョン旅行で訪問した千葉市の教会から、突然招聘の連絡が入ったのです。私達は急遽宣教師となるべく手続きに取り掛かりました。家の売却、荷造り、母教会からの任命、過密な日程も、神様の御手によって全て収められました。聖書学校の卒業も無く、特技も資格も無い私達でしたが、信徒宣教師として第一歩を踏み出しました。

宣教への熱い思いで順調に進み始めたかのような新生活でしたが、初めの1、2年は、まるで浦島太郎のように戸惑うことばかりでした。与えられたミニストリーを楽しむ一方で、私は自分の「居場所」を模索しました。日本人なのにもはや日本人ではなく、かといってアメリカ人でもない私は一体何者だろう、私の居場所はどこにあるのだろうか。デボーションを重ねるうちに、私はすでに「天」という居場所が与えられている事に改めて気付かされました。そして、私がアメリカでクリスチャンとなっ

た理由も、宣教師として日本に遣わされた理由も、全てはこの素晴らしい「居場所」を日本の人々に伝えるため、神様に用いて頂くためであったことを確信しました。

神様の愛は深く計り知れません。中国系アメリカ人の夫と東京で結婚後、私達は娘を連れロサンゼルス郡に移り住みました。息子も与えられ、4人家族で平穏な年月を送っていた矢先に嵐は突然やってきました。結婚前に生まれていたという夫の息子からの手紙。打ちのめされた私は、夫を激しく責め罵り、その子を拒絶、人妻で夫の子を産んだという母親を見下し軽蔑しました。悶々と過ごしていた私を友人がランチに招いてくれました。彼女は涙ながらに語る私に同情もせず、微笑みながら一言放ちました。“Yumiko, God loves you.” 耳を疑いました。私は誘われるまま教会に通い始め、与えられた聖書を貪るように読みました。「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34) 結婚後忠実に私を愛し続けてくれた夫を赦したい、苦しみから解放されたいと願いながら、御言葉に従えぬ自分がいました。コリントの愛の章に全て適えられる人などいるものかと反発さえしました。夫が息子に初対面した日、私は急な出血で訪れた病院で、流産を告げられました。何故? 「愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」(第1ヨハネ4:8) 御言葉が心に鋭

く突き刺さりました。40歳を過ぎていた私に、神様は成長した息子を与我して下さいました。イエス様が私を愛してくださったように、私もまたその子を我が子のように愛せよと。己の罪を棚に上げ人を裁いてきた愚かな私は罪の赦しを乞いました。その日、私は神の子とされ、クリスマスイブに受洗しました。翌年には子供達が揃って受洗の恵みを受け、その翌年、1997年夫がイエス様を我が主として受け入れました。神の愛ゆえに。

この時期、教会では毎年ジンジャーブレッドハウス作りが行われます。親子クラブ、子育て講座、キッズ英語等に來られる若いお母様達と飾り付けをします。その後、イエス様、クリスマスにまつわるお話等をさせて頂くのですが、涙ぐんで聴いて下さるお母様を目にする度に福音伝道の必要を感じました。コロナで中断されたワッフルミニストリーを自宅で再開。同年代の方々、若いお母様方を先ずグループで招き、それからお一人お一人を再び我が家に招き入れます。それがONE-ON-ONEの聖書の学びへと導かれ、その方々と深い繋がりが生まれてゆく恵みに感謝です。夫と共に受けてきた聖書に基づくカウンセリングのセミナーも若い宣教師夫人、インターン達のメンタリングにも大いに役立てられており感謝です。

今年MHA(Missionary Home Assignment)宣教報告)で米国帰国中ですが、ホームステイのホストファミリーを探しています。コロナで断念していたプログラム案がJEMS WEBサイトを通して連絡下さったご夫婦との話しで再燃し始めたのです。多額を必要とする斡旋団体等を通さずにクリスチャン宅にホームステイさせる事はできないものかと施策中です。高校生、若者への伝道が目的です。今夏、高校を卒業後働き始め、20歳になった女性が180日観光ビザを取得、クリスチャン宅にホームステイしています。これからもホストファミリーが与えられるようにお祈りください。そして、このような欠けた者をも主が豊かに用いてくださるようお祈りいただけましたら幸いです。

サポート先: <https://jems.networkforgood.com/projects/38967>





神に仕える 新しいシーズンの到来

JEMS国内宣教総主事 和田 ケニー師

2022年の初頭、私は私の牧師としての仕事が終わりに近づいてきているのを感じていました。1990年から奉仕してきたホーム・チャーチは、2019年の半ばに、主任牧師が過渡期を迎え、2020年から2022年にはコロナ禍ゆえに、教会は大きな変革の時となりました。特に私は主任牧師の変更についても教会を支えていくことを示されていましたし、また違った形で教会の家族に仕えていくことができたらと思っていました。

その年の夏、マウント・ハーモンの青年キャンプに参加した娘たちと従妹たちを迎えに行く前に、私はサンホゼで個人的に2日間のリトリートを持ちました。その間、私は何時間も日々のことを書き留めたり、読書したり、み言葉を瞑想したり、祈ったり、主が私に何を求めておられるかなどについて主に問いかけながら過ごしておりました。その時、私はこれから何をすべきか予測できませんでした。ただ牧師としての仕事は終わりにしたいという強い思いがありました。

リトリートの二日目、私は詩篇を読んで、瞑想しておりました。そして詩篇71編に行き着きました。私は詩篇の作者が直面した敵たちを自分自身と関連づけることはできませんでしたが、彼が表す信仰、正義なるもの、良きもの、神への忠誠への深い信頼が私の霊性に深く結びつき、私の心に鋭く突き刺さりました。

神よ、あなたはわたしを若い時から教えられました。わたしはなお、あなたのくすしきみわざを宣べ伝えます。神よ、わたしが年老いて、しらがとなるとも、あなたの力をきたらんとするすべての代に宣べ伝えるまで、わたしを見捨てないでください。

(詩篇71:17-18)

実際、神様は若い時から私を彼のもとに引き寄せ、教え導いてくださいました。1978年のミッション・スプリングスでの

マウント・ハーモン・ジュニアハイ・キャンプに参加した時のことでした。主が私の魂の真ん中に入り、主にお仕えることを示してくださいました。ロイ・長崎師によって祭壇に導かれ、自分自身の罪に涙し、悔い改め、同時に喜びの涙にくれました。その時12歳だった私はイエス様に許されたことが嬉しかったのです。私にとって初めてのキリストによる聖別と神の憐みとの出会いでした。それは私の人生において何度も繰り返されてきた聖なる喜びの瞬間でした。

主が優しく私の罪を現わにし、キリストによる愛の許しへと導き、聖霊に満たされ、力がみなぎるとき、キリストの義に力強く引き寄せられていったのです。

私は詩篇を続いて瞑想しました。私自身の人生、そしてすべての友人知人を通して神に忠実であることを感謝していたので、私は主が私の大部分の時間を用いて神を知ること、また神を知らせるための場所を私に必ず用意してくださることを信じていました。私はこの個人的なリトリートにおいて2つの祈りをリクエストし、何らかの形でミニストリーに関わることができるという強い確信を覚えていました。私の二つの祈りとは、ホームチャーチに留まるということ、そして大学生の年齢のミニストリーに関わることでした。なぜ大学生なのかというと、私は常に若者たちへの重荷を負い、愛を感じていたからです。それは私が若い年に、神に救われ、今日まで神と共に歩む道が整えられてきたからです。また過去5年間、私は大学生へのミニストリーに従事し、それが喜びであり、生かされてもきたからです。

夏も終わろうとし、秋に入った頃、私は学生キャンパス・ミニストリーを模索し始めました。また教会では、牧師職を離れることを公表しました。その年の終わりまでに、何をするかを決めたいと思いました。

2023年の1月から3月まで3か月のサバ

ティカルを取り、新しい宣教のシーズンを迎えたいというのがわたしの願いであり希望でありました。私は二つの有名な大学のキャンパス・ミニストリーに目をとめました。小さなキリスト教の学校での教職の仕事、また近郊のキリスト教の高校での聖書の教師の職などでした。何かの理由によって、どちらの機会も得ることができませんでした。機会は閉じられました。あるいは、私自身、強い導きや召しを感じていなかったのかもしれませんが。

春が訪れ、私のサバティカルも終わりました。そんな時、私は全く予期していませんでしたが、JEMSの役員ケビン・林田牧師から電話を受けました。彼は端的に私がJEMSのスタッフとして参加できるように祈ることを受け入れてくれるかと尋ねてきました。何を？何故？私の中に多くの質問が渦巻きました。しかし同時に心の内に好奇心が溢れ出てきました。その夏、わたしは他の役員マーク・岡田氏やリック・中馬師とさらなる話し合いを進めました。すべての話し合いの後、私はこれは主が導いてくださっていると感じることができました。主は主との関係の土台を作り、形作る重要な役割を担うために私をミニストリー職に戻そうとされたのです。さらに大切なことは、そのミニストリーは私を次の若き世代に及ぶ力を築き、すべての者たちへミニストリーの権限を宣言させるものだったのです。

秋となった2023年9月18日、私は主に仕えるために新しい宣教に取り組むことになりました。私の主であり、救い主イエス・キリストのお心と目的のために、新しいシーズンが始まりました。感謝するばかりです。



JEMS 日本語部

JEMS日本語部コーディネーター 藤本 三奈子

Merry Christmas! 2023年もJEMS日本語部の働きのためにお祈りと経済的サポートを頂き、感謝致します。

第75回JEMSマウントハーモン修養会お知らせ

2024年6月30日(日)～7月6日(土)

日本語講師 / 福野正和牧師(RCI南大阪福音教会) / 長沢崇史牧師(カナン・ブレイズ・チャーチ)

申込み開始は1月頃を予定しています。75回目と記念修養会となるため、混雑が予想されます。お早目に準備と申込みを!

JEMSウェブサイト: <https://www.jems.org/mount-hermon> 申込み: www.mounthermon.org/jems

JEMSアプリ: Japanese Evangelical Missionary Society



**JAPANESE EVANGELICAL
MISSIONARY SOCIETY**

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ _____ 捧げます。(_____ 月 _____ 年まで)
- 今回 \$ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子



Christmas Spirit の灯が皆様の心に明るく灯されますように・・・。

12月に入ると、クリスマスの飾りつけをどうしようかと思悩む。歳を重ねるごとに、何事にも億劫になっている自分がいる。ツリーを買いに行き、ガレージの高い棚にはしごをかけて、クリスマスの飾りつけの箱をいくつもおろして..。しかし床に散乱した飾りつけの数々の真ん中に坐ると、不思議と心は鼓舞される。荒野のうらぶれた馬小屋に生まれた幼子の映像が目浮かび、心の中にポッと灯がともる。主が2千年前の昔、誕生してくださったことが世界の人々の命を変えてくださったことを思い感謝に溢れてくる。 Merry Christmas!!